



带状疱疹になったことは ありますか？

皮膚科 部長 石田 済



60歳を過ぎると、この病気になる確率が高くなります。また、後遺症として带状疱疹後神経痛と呼ばれる痛みにも長く苦しむ方もおられます。

後遺症を残さないためには、病気の早期にしっかりと治療を受けることが大切です。

带状疱疹の原因をご存知ですか？ 带状疱疹は水痘・带状疱疹ウイルスによる感染症です。このウイルスが初めて外界から体内に入り込み「感染」したとき、水痘（水ぼうそう）になります。水痘は7〜10日位で治りますが、このウイルスは体内から無くなるわけではありません。後根神経節と呼ばれる場所に残り、潜伏感染状態となります。この状態ではウイルスは悪さをしません。この状態では後根神経節はウイルスを攻撃する免疫細胞が手を出せない場所なのです。ウイルスが水痘になってから50〜60年後に再活性化を

起こし、病気となって現れてくるのが带状疱疹です。また、その症状は非常に特徴的です。

①左右どちらか、しかも限られた部分に皮疹が集中している

②皮疹の一つ一つは水痘のブツブツと同じ大きさ（ただし、皮疹同士が合体して大きくなるものもある）である

③皮疹のある辺りに主に痛みが出現している
④皮疹と痛みが同時に出る場合もあれば、どちらかだけが先に出る場合もある

带状疱疹にかかったことがある方やその家族であれば、带状疱疹の発症はピンとくるはず。なるべく治療は早く始めた方が後遺症の带状疱疹後神経痛の出現も抑えられます。一刻も早く、医療機関への受診をお勧めします。

带状疱疹の治療はどんなことをするのでしようか？ 柱は二つです。一つは除痛を目的にした痛み止めの内服です。もう一つは、ウイルスの増殖を抑える抗ウイルス薬の投薬です。

残念ながら、このウイルスを破壊する薬剤はありません。破壊するのは免疫のリンパ球の役割です。リンパ球がウイルスを攻撃するまで少し時間がかかります。この間に、ウイルスが増殖してしまつと病気が悪化します。ですから、この増殖期間に抗ウイルス薬をより早く投与することがとても重要です。带状疱疹を疑った場合、積極的にこの抗ウイルス薬を投与した方が良いので、救急外来を含め医療機関への受診をお勧めします。

带状疱疹の合併症は脳炎・髄膜炎、顔面神経麻痺、ヘルペス角膜炎、聴力低下、便秘、尿閉などが挙げられます。合併症はそれぞれ対策がありますので、やはり医療機関への速やかな受診が大切です。

带状疱疹の予防治療はあるのでしょうか？ 以前から予防ワクチンがあり、55歳以上の希望者は接種できます。令和2年からは更に予防効果の高いワクチン「シングリックス®」が、50歳以上の方で利用可能（保険診療ではなく自己負担での予防接種）となりました。詳細は、当科にお問合せください。